

「都市対抗 世界子ども将棋団体戦」

決勝戦の報告

報告者：理事 北 昌宏

予選を勝ち上がった、ベラルーシチームとドイツチーム(各団長を含め計8名)を日本に招き、快晴の空の下、決勝戦は、2024年11月9日(土)に行われた。開始時刻は、12時30分。日本将棋連盟旧会館の2階にある旧将棋道場の奥に、「仕切り壁」を設け実施された。同じ旧将棋道場では、既に、10時より「国際オープン将棋大会」が開催されており、「仕切り壁」は、互いが邪魔しないために、設けられたものである。

対局方式は、3人の選手による団体戦で、対局時計を使用し、持ち時間は15分。使い切ると30秒の秒読みという時間設定の下で行われ、各対局とも非常にレベルが高い、白熱した熱戦が繰り広げられた。ISPS 関係者以外にも「国際将棋トーナメント」に参加した各国の将棋愛好家が多数観戦し、その中に、FESA 会長レーヴェ・カンブ氏もおられた。

対局は、振りごまの結果、ベラルーシ奇数番号が先手となった。

【対局結果】

	ベラルーシチーム	ドイツチーム	【結果】 勝者名 (国)
① 大将	VALKOU PAVEL	KAMO DAN	VALKOU (ベラルーシ)
② 副将	CHERNASHEVICH DZMITRY	TAKAYANAGI KAITO	TAKAYANAGI (ドイツ)
③ 三将	RACHKOUSKI MIKHAIL	SUGANAMI LEO	RACHKOUSKI (ベラルーシ)
【結果】	【2勝1敗でベラルーシチームの勝ち】		



大将戦の棋譜は東奨励会員が採譜(中央マスク姿)。

青野九段も観戦されていて、大将戦について、コメントを頂いた。(後ほど提示)

決勝戦の様子

左 ベラルーシチーム 右 ドイツチーム
奥から 大将戦・副将戦・三将戦

【 表彰式 】

優勝したベラルーシチーム及び準優勝のドイツチームには、ISPS 山田理事長から賞状、副賞として棋書が贈呈された。



優勝した
ベラルーシ チーム

左から
山田理事長
LYSENKA 団長
CHERNASHEVICH
VALKOU
RACHKOSKI



準優勝の
ドイツ チーム

左から
山田理事長
KAMO
SUGANAMI
TAKAYANAGI
JANIK 団長

【 大将戦 VALKOU PAVEL (ベラルーシ) 対 KAMO DAN (ドイツ) の棋譜 】

開始日時：2024/11/09 12:02:59 終了日時：2024/11/09 12:52:09

手数----指手-----消費時間--

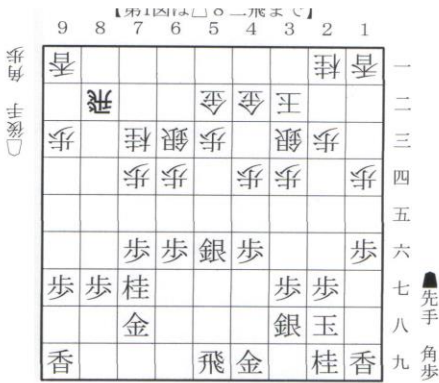
1 7 六歩(77) (0:15/00:) 2 8 四歩(83) (0:06/00:)

3 5八飛(28)	(0:03/00:)	4 8五歩(84)	(0:05/00:)
5 7七角(88)	(0:02/00:)	6 3四歩(33)	(0:02/00:)
7 7八金(69)	(0:02/00:)	8 6二銀(71)	(0:03/00:)
9 5六歩(57)	(0:02/00:)	10 5二金(61)	(0:04/00:)
11 5五歩(56)	(0:04/00:)	12 4二玉(51)	(0:02/00:)
13 4八玉(59)	(0:08/00:)	14 3二玉(42)	(0:14/00:)
15 3八玉(48)	(0:03/00:)	16 1四歩(13)	(0:06/00:)
17 1六歩(17)	(0:03/00:)	18 4二銀(31)	(1:01/00:)
19 5四歩(55)	(0:21/00:)	20 7七角成(22)	(0:07/00:)
21 同 桂(89)	(0:12/00:)	22 5四歩(53)	(0:05/00:)
23 同 飛(58)	(0:05/00:)	24 3三銀(42)	(0:34/00:)
25 6八銀(79)	(0:49/00:)	26 5三步打	(0:05/00:)
27 5九飛(54)	(0:02/00:)	28 6四歩(63)	(0:05/00:)
29 2八玉(38)	(0:11/00:)	30 4四歩(43)	(0:04/00:)
31 6六歩(67)	(0:27/00:)	32 4二金(41)	(1:00/00:)
33 3八銀(39)	(0:10/00:)	34 6三銀(62)	(0:11/00:)
35 6七銀(68)	(0:04/00:)	36 7四歩(73)	(0:44/00:)
37 4六歩(47)	(0:19/00:)	38 7三桂(81)	(0:17/00:)
39 5六銀(67)	(1:25/00:)	40 8六歩(85)	(1:20/00:)
41 同 歩(87)	(0:04/00:)	42 同 飛(82)	(0:04/00:)
43 8七歩打	(0:46/00:)	44 8二飛(86)	(0:04/00:)
45 6五歩(66)	(0:36/00:)	46 同 歩(64)	(0:02/00:)
47 同 桂(77)	(0:12/00:)	48 同 桂(73)	(0:11/00:)
49 同 銀(56)	(0:03/00:)	50 6四歩打	(0:04/00:)
51 7三角打	(0:15/00:)	52 8一飛(82)	(0:58/00:)
53 6四銀(65)	(0:07/00:)	54 5四銀(63)	(0:50/00:)
55 5五銀(64)	(0:35/00:)	56 4三銀(54)	(0:30/00:)
57 6四角成(73)	(0:47/00:)	58 7五歩(74)	(0:46/00:)
59 5四歩打	(0:29/00:)	60 6三步打	(0:31/00:)
61 5三馬(64)	(0:40/00:)	62 同 金(52)	(0:30/00:)
63 同 歩成(54)	(0:04/00:)	64 同 金(42)	(0:01/00:)
65 6五桂打	(0:44/00:)	66 5二金(53)	(0:02/00:)
67 5四銀(55)	(0:40/00:)	68 5八歩打	(1:17/00:)
69 同 飛(59)	(0:17/00:)	70 6六桂打	(0:59/00:)
71 4三銀成(54)	(0:14/00:)	72 同 金(52)	(0:03/00:)
73 5二飛成(58)	(0:08/00:)	74 4二銀打	(1:32/00:)
75 5三金打	(0:19/00:)	76 同 金(43)	(0:08/00:)
77 同 桂成(65)	(0:04/00:)	78 5一金打	(0:42/00:)
79 4二成桂(53)	(1:20/00:)	80 同 銀(33)	(0:21/00:)
81 4三銀打	(0:03/00:)	82 2二玉(32)	(0:20/00:)

- 83 7 二龍(52) (0:26/00:) 84 7 八桂成(66) (0:28/00:)
 85 3 二金打 (0:31/00:) 86 1 三玉(22) (0:24/00:)
 87 4 二銀(43) (0:14/00:) 88 5 七桂打 (0:27/00:)
 89 2 二銀打 (0:15/00:) 90 2 四玉(13) (0:04/00:)
 91 3 六銀打 (0:11/00:) 92 4 九桂成(57) (0:27/00:)
 93 3 三銀(42) (0:06/00:) 94 同 桂(21) (0:03/00:)
 95 同 銀(22) (0:03/00:) 96 投了 (0:05/00:)

【青野九段コメント】

後手（ドイツ）の気になる手は、**44 手目**、飛車の引き場所を工夫したく、8 三飛が良いのでは。



そして **50 手目**に 6 四歩としたが、歩が 2 つあるときに 1 五歩、同歩、1 七歩と攻めたい。6 四歩には 5 四銀、7 三角、8 一飛。6 四歩には 7 二銀の要領で。最後まで端を狙う発想がなかったのが残念。**(49 手目 途中図掲載)**

54 手目ここで 6 六桂なら、桂打ちが有効だった。



58 手目。7 五歩では、王手飛車取りを避ける意味でも 6 一飛と展開したい。

67 手目。5 四銀はやや危険。5 四歩、4 一桂、6 四歩なら、安全勝ちだった。しかし結果的にこの手が早く勝つことになった。(66 手目 途中図掲載)



70 手目、6 六桂は悪手というよ

り敗着。4 三銀成とされては、たちまち後手の負けになった。5 四同銀と取り、同飛、4 三銀、7 四飛、8 三角の進行なら、互角の戦いだった。

全体として先手は中飛車を指し慣れている感じ。後手は受けに回るだけでなく、どこかで反撃を考える技術を身につければ、強くなるかと思う。

【 終わりに 】

ここでは、大将戦のみ棋譜を紹介したが、どの将棋も大変レベルが高く、正に、決勝戦にふさわしいものとなった。

一言付け加えておくと、決勝の大将戦で敗れた KAMO DAN 君（ドイツ）であるが、次の日行われた両国将棋センターの道場の交流会では、小学生大会県代表クラスを相手に勝利している。将棋を観戦していた、両国将棋センターの佐久間席主は、

「ドイツに居て、どうしてこれほどまで強く成れるのか」

と、驚きと嘆息を交えて語っていた。

(了)